

事業所名 児童多機能型事業所 そらのいろ

支援プログラム

作成日 令和 6 年 12 月 23 日

法人（事業所）理念		障がいや特性のある子どもたちが周囲のコミュニティと共存しながら自分らしくのびのびと生活していけるように、子どもたちに関わる全ての方と一緒に考え学び成長していく、そんな居場所を提供する。												
支援方針		【児童発達支援】 身体機能または発達に不安のある乳幼児を対象に、心身を豊かにし、楽しい社会生活を送れるようになるための支援を行う。 【放課後等デイサービス】 身体機能または発達に不安のある学齢期児童を対象に、「発達支援の継続的提供」と「成人期への準備」を目標に、放課後や長期休暇の居場所を提供する。												
営業時間			8 時		30 分	から		17 時		30 分	まで	送迎実施の有無	<div>あり</div>	なし
		支 援 内 容												
本人支援	健康・生活	○健康状態を把握する。 ○食事・整容・排泄・更衣・身支度等、基本的な日常生活動作能力を身につける支援をする。 ○生活の中で様々な遊びや活動を通して生活環境を整える練習をする。長期休暇中には朝にラジオ体操等をして生活リズムを整える。												
	運動・感覚	○ラジオ体操、鬼ごっこ、ボール遊び、バドミントン等を集団で行ったり、視覚・触覚等を刺激するようなクイズやゲームをみんなで行う。 ○椅子などに座って自分の好きな活動することにより、体幹機能や手先の感覚を養ったり集中力を高めたりできるように支援する。 ○肢体不自由児や運動発達に遅れのある子どもに対して、個別に運動療育を行って運動機能面・感覚機能の維持向上を図る。												
	認知・行動	○空間や時間などの既成概念の形成を図ったり視覚支援を活用したりすることで、見通しをもち自主的に行動ができるようにする。 ○自分の得意なことや苦手なことを知り自己理解をしていくことを促す。 ○集団活動で数量・形の大きさ・重さ・色の違い等に触れる機会を作り認知機能を高めていく。												
	言語コミュニケーション	○自分の思いを伝える練習をしたり相手への伝え方を学んだりして、場面や相手の状況に応じた適切なやりとりができるように支援する。 ○集団活動の際に自己紹介や振り返り、意見質問等を人前で発表する機会を作る（年に一度自分の得意なことを人前で発表する場を設けている）。 ○指差し、ジェスチャー、絵カード・文字盤等の視覚支援ツールなどを活用し、意思伝達や理解をする経験を積んで生活場面に生かせるように支援する。												
	人間関係社会性	○スキンシップや要求に応えることで子どもとの関係性を深めていき、周りの人たちと愛着形成できるように支援する。 ○見立て遊びやごっこ遊びが好きな子どもたちに対して、その遊びを通して友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じてもらえるように支援する。 ○集団活動に参加するための手順やルールを子どもたちの特性に合わせて説明し、理解した状態で参加して楽しかったと感じてもらえるように支援する。 ○得意不得意など自分の行動の特徴を理解し、気持ちや情動のコントロールができるように支援する。												
家族支援		○子育て等の悩みに対して相談支援をする。 ○各関係機関と密に連携しながら、保護者の思いを尊重し寄り添いながら子どもの発達に沿った支援プログラムを作成する。							移行支援		○進路先や移行先への相談援助や情報共有をする。 ○就職を考えている子どもや保護者に対して、就労施設への見学や体験の調整をする。			
地域支援・地域連携		○地域の行事に参加したり地域のボランティアの方を招いて交流する。 ○相談支援事業所や保育所・学校との情報連携をする。							職員の質の向上		○外部研修の受講や事業所内研修を実施し、職員の専門的な知識やスキル支援の質の向上を図る。			
主な行事等		・お花見 ・七夕祭り ・夏祭り ・水遊び ・ハロウィンパーティー ・地域の工場見学 ・戸外学習 ・クリスマス会 ・お正月会 ・節分会 ・避難訓練 ・交通安全教室など												